

～野菜、花き類及び大豆 ヨトウムシ類の発生に注意～

1 発生概況について

- (1) 台風第9号(8月9日)の通過後に、フェロモントラップ調査でシロイチモジヨトウ(以下シロイチ)、ハスモンヨトウ(以下ハスモン)の雄成虫が多く誘殺されました。(図1～3)。
- (2) シロイチやハスモンの成虫は前線に向かって流れ込む風や台風にともなって、海を越えて大陸より長距離飛来することが知られています。  
また、大量飛来の後には、大きな被害が発生することがあります。
- (3) 既に、農業技術センター(東広島市八本松町)のほ場では、7月に飛来した個体群に由来するものと思われるハスモンの食害によって大豆の白変葉が確認されています。
- (4) 現在、前線が停滞しており、この前線に向かって南風が流れ込んできているため、ハスモン等の飛来がしばらく続くと予想されます。  
大雨に警戒するとともに、天候が落ち着いた後には、ほ場を見て回り、白変葉や卵塊、幼虫の発生を確認したら、直ちに防除してください。

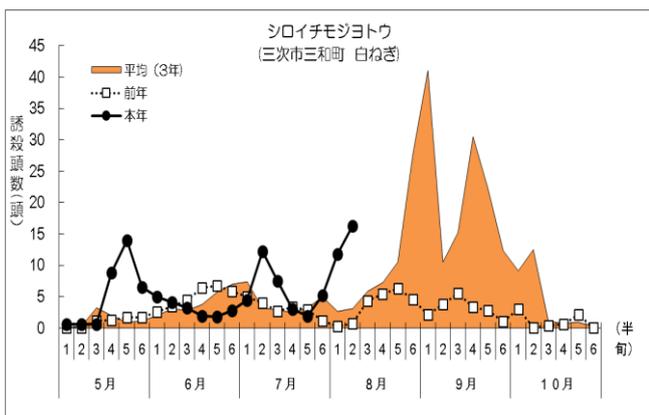


図2 トラップに誘殺されたハスモンヨトウ雄成虫

図1 フェロモントラップへのシロイチモジヨトウ雄成虫誘殺数の推移

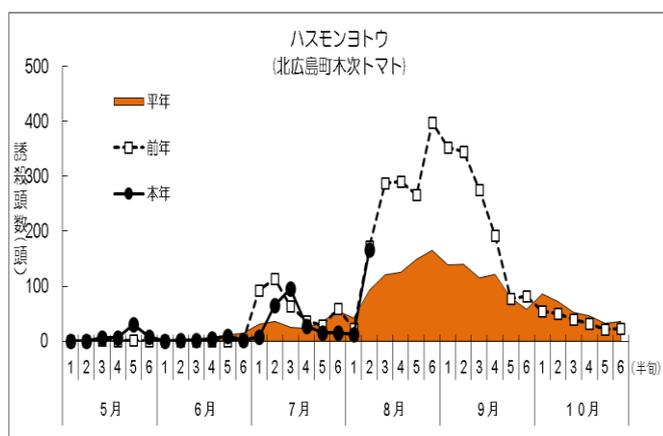
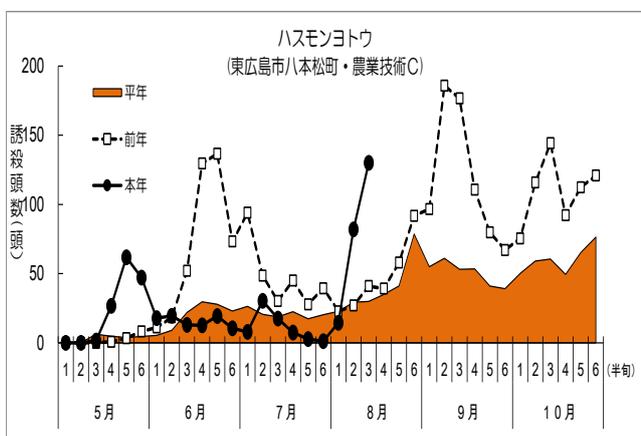


図3 フェロモントラップへのハスモンヨトウ雄成虫誘殺数の推移

## 2 防除対策について

- (1) シロイチ、ハスモン（ヨトウムシ類）の幼虫は、多くの野菜類、花き類、果樹を加害する広食性の害虫です。
- (2) シロイチ、ハスモンの雌成虫は灰白色から黄白色の毛におおわれた卵塊を葉裏に産みつけます（図4）。ほ場を見回り、卵塊が多くみられる場合は、幼虫の発生に注意しましょう。
- (3) 若齢幼虫（図4）の発生を確認したら直ちに防除してください。**若齢幼虫の発生時期（防除適期）は、フェロモントラップへの雄成虫誘殺ピークの7~10日後が目安です。**
- (4) 薬剤抵抗性の発達が確認されており、特に老齢幼虫期（図6、7）になると薬剤が効きにくくなるため、防除は若齢幼虫期に行いましょう。
- (5) 薬剤抵抗性回避のため、異なる作用機構の薬剤をローテーション散布しましょう。
- (6) 薬剤散布については、農薬使用基準を遵守しましょう。周辺作物への飛散防止対策を行い、収穫時期が近い作物がある場合などは、特に注意しましょう。
- (7) 最新のフェロモントラップへの誘殺状況は、「ひろしま農業情報」ホームページでご確認ください。



図4 卵塊（左：シロイチ、右：ハスモン）



図5 ハスモン若齢幼虫



図6 シロイチ老齢幼虫（左：緑色型 右：黒色型）



図7 ハスモン中齢と老齢幼虫

### ● お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム

東広島市八本松町原 6869

TEL：082-420-9662（直通）

ひろしま農業情報ホームページ（病害虫情報）

(<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/nougijutsu/#byougaityuu>)



ひろしま農業情報 検索

